

コンプレッサの更新

加工所で使用しているコンプレッサを一定速機からインバーター制御に更新しました。今までは大容量の一定速機型コンプレッサを使用しておりましたが、実際の使用量は容量の約1/3であることが判明したため、容量を減らすとともにインバーター制御に更新しました。インバーター制御とは、負荷に応じて、インバーターがモーターの回転数をコントロールし圧力が一定になるように制御することです。弊社の加工所の場合、常に一定のエア量を使用的是のではなく、断続的に使用しているためインバーター制御を採用しました。



また、エアホースの経年劣化によるエア漏れを改善するために第二工場内のエアホースを全て新品に交換しました。エア漏れを改善することでエア使用量の無駄をなくし、コンプレッサの電力消費を抑える事ができました。

照明のLED化推進

照明を蛍光灯からLEDに変えることで省エネ効果が見込まれています。消費電力量で蛍光灯の約30%、寿命も蛍光灯の約5倍になります。当社でも消費電力の削減に向けて照明のLED化を進めております。2022年度末時点で第二加工と第二工場の照明をLEDに交換し当社の全照明1181灯のうち777灯をLED照明(約66%)に交換しました。2023年度には107灯(約10%)交換を計画。



エアコンの更新

老朽化した検査室のエアコンを省エネタイプに更新しました。さらに室内の広さにあった容量に変更することで、以前と比較し冷暖房の効率が上がり消費電力を年間約64%削減することが出来ました。今後も順次省エネ高効率タイプへ更新してまいります。



ゴミの分別強化

社内で発生するゴミの分別を強化しました。分別の種類としては一般ゴミ、紙ゴミ、産業廃棄物の3つですが、その中身の違いについては大まかな内容しか把握や周知が出来ておらず、結果各自が分別に悩むゴミに関しては産業廃棄物として分別している実態がありました。社内で出た紙ゴミ(段ボール使用済みコピー用紙等)はリサイクル可能なゴミであり分別を徹底することで、廃棄されるゴミの量を減らすだけでなく、リサイクルに貢献することが出来ます。そこで、社内で発生すると思われる1つ1つの物品に対して、それがどの分別に該当するのかをリサイクル業者や市の担当者部門に確認を行い明確にし、掲示することでゴミの分別強化を図る活動を行いました。



2023年度の活動予定について

- ・ 埼玉県省エネ診断の実施
- ・ 工場内の照明のLED交換の継続実施
- ・ 工場内エア漏れ改善による、コンプレッサの効率化等

CO₂排出実績報告

単位：tCO₂

	2020年度	2021年度	2022年度
SCOPE1	74.1	71.5	71.7
SCOPE2	3245.7	3274.5	3088.5
合計	3319.8	3346.0	3160.2

基準年(2020年度)に対し、4.8%の減少となりました。目標値にはまだ達しておりませんが、省エネ診断等で社外の方にも協力して頂き、無駄を削減することで電気使用量を低減し、CO₂排出量の削減を行って参ります。